

子ども劇場のあり方について

1 児童館の種別 機能・特徴 ※【対象児童】0歳～18歳未満のすべての児童

【資料1】 令和7年9月25日

	小型児童館	大型児童館 A型	大型児童館 B型	大型児童館 C型
面積	217.6㎡以上	2,000㎡以上	1,500㎡以上	
設置・運営	市町村等	都道府県	都道府県、市町村等	
機能・特徴	・児童に遊びを与え、健康を増進し情操を豊かにする。 ・地域組織活動を促進する。	・小型児童館機能＋体力増進や年長児童育成機能 ・県内児童館の指導及び連絡調整等の中核機能	・小型児童館機能＋自然の中で宿泊や野外活動が行える機能	・小型児童館機能＋芸術、体育、科学等の総合的な活動ができるように多様にニーズに対応できる機能
設備	集会室、遊戯室、図書室 (必要に応じ相談室、創作活動室、静養室、児童クラブ室等)	小型児童館＋(必要に応じ研修室、展示室、多目的ホール、ギャラリー等、移動型児童会館用車両)	小型児童館の設備等＋宿泊室、食堂・厨房、脱衣・浴室等を設けること。キャンプ等の野外活動ができる設備を設けること。必要に応じて、移動型児童館用車両を備えること。	小型児童館機能＋劇場、ギャラリー、屋内プール、コンピュータプレイルーム、歴史・科学資料展示室、宿泊研修室、児童遊園等が適宜附設
職員	児童厚生員2人以上	小型児童館＋必要に応じてその他の職員の配置	小型児童館＋必要に応じてその他の職員の配置	小型児童館＋必要に応じてその他の職員の配置
施設数(2023年時点)	全国2,427か所(県内70か所)	全国15か所(県内1か所)	全国3か所	全国0か所
施設数の推移(対2001年)	△394か所	△2か所	△1か所	△1か所

秋田県児童会館

2 秋田県児童館の機能と利用状況等

児童館機能

- ・レクリエーションホール
- ・木育ルーム
- ・図書室
- ・工作ルーム
- ・音楽室など

【令和6年度利用人数】
事業入館者：14,876人
自由来館者：60,004人

博物館機能

- ・プラネタリウム
- ・科学実験室
- ・展示ルームなど

【令和6年度利用人数】
博物館事業：9,447人

劇場機能

- ・子ども劇場
けやきシアター
(778名収容)

【令和6年度利用人数】
劇場：28,965人

その他機能

- ・移動児童館
- ・県内児童館の連絡調整

R 6 利用者アンケート等

①利用頻度 月1回以上：約3割

②利用地域：秋田市 約7割

③利用の主な理由

- ・自由に遊ばせられる：約5割
- ・遊具やおもちゃで遊べる：約5割
- ・悪天候でも利用できる：約5割

④遊び場の選択時に重視するもの

- ・子どもと遊ぶものが充実：約8割
- ・自由に遊ばせられる：約7割
- ・安心して遊ばせられる：約4割



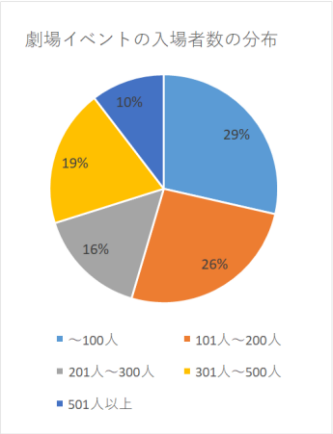
【求められている遊び場像】

- ・子育て中の親と子ども（未就学児と低学年の兄弟）が一緒に利用できる施設
- ・天候に左右されず利用できること
- ・誰でも遊べる遊具があること（インクルーシブ遊具等）
- ・子どもが安全・自由に遊べる空間
- ・遊び場環境の地域差がないこと

3 子ども劇場の利用状況

1 利用規模

- ・ 200人以下の利用が約5割
(100人以下が27%、101人～200人が30%)

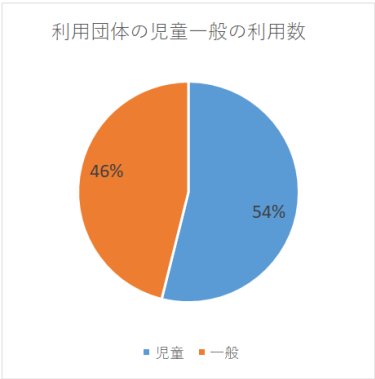


利用規模	～100人	101人～200人	201人～300人	301人～500人	501人以上	合計
割合	27%	30%	15%	19%	10%	100%
イベント数	22	24	12	15	8	81

3 利用団体の児童と一般の分類

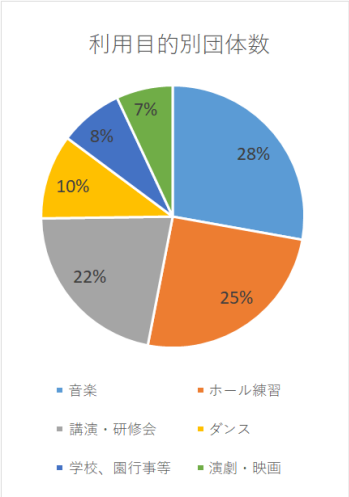
- ・ 児童：54%、一般：46%と、利用がほぼ半数となっており、施設の趣旨と利用実態との間にズレが生じている。

利用団体の児童・一般の分類	令和6年	
児童	54%	62
一般	46%	53
合計	100%	115



2 利用目的別の分類

- ・ 音楽イベント：28%、ホール練習：25%、講演・研修：22%、ダンス：10%
- ・ 児童利用の内訳は、ホール練習が40%、音楽イベントが37%
- ・ 一般利用の内訳は、講演、研修会が47%、音楽、ダンスイベントが各17%

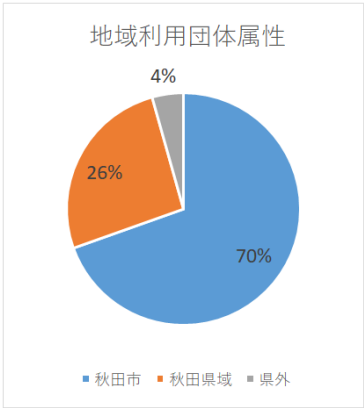


利用目的別の分類	音楽	ホール練習	講演・研修会	ダンス	学校、園行事等	演劇・映画	合計
割合（全体）	28%	25%	22%	10%	8%	7%	100%
団体数（全体）	32	29	25	12	9	8	115
割合（児童）	37%	40%	0%	5%	13%	5%	100%
団体数（児童）	23	25	0	3	8	3	62
割合（一般）	17%	8%	47%	17%	2%	9%	100%
団体数（一般）	9	4	25	9	1	5	53

4 利用団体の地域

- ・ 秋田市が70%、秋田県域が26%、県外が4%

利用者団体の地域別分類	令和6年	
秋田市	70%	80
秋田県域	26%	30
県外	4%	5
合計	100%	115



出典：秋田県児童会館事業報告書

本県の将来人口推計等

- 秋田県の0～19歳の人口は2024年の114,382人から2040年には66,999人に減少する見込み（41.4%減）
- 秋田市小中学校適正配置方針においても、2040年には小学校が現在38校→27校 中学校19校→16校に減少（利用団体の減少）

4 類似施設の状況

(1) 秋田市内の類似施設

子ども劇場の利用の7割を占める秋田市には多数の施設が整備されている。

(2) 子ども劇場とミルハスの利用料の比較 ※同規模の中ホールと比較

児童利用の場合は、ミルハスよりも安価に利用することができるが、一般利用の場合は、入場料区分により子ども劇場の方が高くなる区分がある。※右記の料金表参照

(3) 200人以下の利用に適した施設の整備状況

- これまで子ども劇場で行われてきた200人以下の音楽イベントは、ミルハスの小ホールAの活用が可能である。
- ホール練習は、ミルハスの小ホールA及び小ホールBが活用可能である。
- ダンスイベントや演劇講演は、ミルハスの小ホールBが活用可能である。
- 講演、研修などは、秋田市のにぎわい交流館（収容250席）やアルヴェの多目的ホール（200席）等の活用が可能である。

【参考①】子ども劇場の稼働率と類似施設の比較

劇場	収容 定員	R3	R4	R5	R6	平均
		稼働率	稼働率	稼働率	稼働率	稼働率
児童会館子ども劇場	778	43.5%	51.6%	56.3%	54.5%	51.4%
ミルハス大ホール	2,007	—	85%	85%	81%	83.7%
ミルハス中ホール	800	—	83%	85%	78%	82.0%
ミルハス小ホールA	200	—	71%	77%	70%	72.7%
ミルハス小ホールB	160	—	58%	51%	52%	53.7%
アトリアオン音楽ホール	700	86.2%	95.2%	93.0%	93.7%	92.0%
アトリオン多目的ホール	700	49.1%	51.9%	59.0%	59.8%	55.0%
アトリオンミニホール	100	97.5%	93.3%	96.3%	96.1%	95.8%

【子ども劇場の類似施設】

秋田市にぎわい交流館AU（あう）
多目的ホール 座席数250席

秋田市拠点センターアルヴェ
多目的ホール 座席数200席

サービスセンターキタスカ
地域文化ホール 座席数286席

潟上市市民センターかたりあん
多目的ホール 座席数600席

【参考②】子ども劇場と類似施設の利用料の比較

秋田県児童会館子ども劇場 利用料金の状況

1 児童会館子ども劇場利用料金（抜粋）

入場料 徴収額区分	使用者 区分	曜日 区分	時間帯区分		参考
			9～12	12～17	
0～300	児童		11,040	18,400	29,440
		平日	16,500	27,500	44,000
		休日	19,800	33,000	52,800
301～1000	児童		18,540	30,900	49,440
		平日	24,780	41,300	66,080
		休日	29,730	49,550	79,280
1,001以上	児童		22,050	36,750	58,800
		平日	32,970	54,950	87,920
		休日	39,540	65,900	105,440

ミルハス（中ホール座席数800）利用料金（抜粋）

入場料有無 曜日区分	時間帯区分		
	9～12	13～17	9～17
無し 平日	19,600	26,200	45,800
無し 休日	23,500	31,400	54,900
1,000円以下 平日	23,500	31,400	54,900
1,000円以下 休日	28,200	37,700	65,900
1,000円超3,000円以下 平日	31,400	42,000	73,300
1,000円超3,000円以下 休日	37,600	50,300	87,900
3,000円超5,000円以下 平日	41,200	55,100	96,200
3,000円超5,000円以下 休日	49,400	66,000	115,300
5,000円超 平日	51,000	68,200	119,100
5,000円超 休日	61,100	81,700	142,800

ミルハス（小ホール）利用料金（抜粋）

ホール	入場料有無 曜日区分	時間帯区分		
		9～12	13～17	9～17
小ホールA	無し 平日	7,400	9,900	17,300
	無し 休日	8,900	11,800	20,700
	有り 平日	11,100	14,900	26,000
	有り 休日	13,400	17,700	31,100
	無し 平日	6,200	8,200	14,400
小ホールB	無し 休日	7,400	9,800	17,200
	有り 平日	9,300	12,300	21,600
	有り 休日	11,100	14,700	25,800

【参考③】ミルハス 小ホール施設概要 ※あきた芸術劇場ミルハスHPより要約

小ホールAは楽器演奏に、小ホールBはバレエ、ダンスなどに適している。

・小ホールA（収容人数：200人 稼働率：R6 70%）

音楽の発表を前提とした会場であり、室内楽など少人数での演奏会の他、管弦楽や吹奏楽、合唱などの練習会場としても使用可能である。

・小ホールB（収容人数：160人 稼働率：R6 52%）

リノリウム床や大きな鏡を設置しており、劇やダンスなどの公演のほか、中ホールでの公演のリハーサル会場としても使用可能である。

【参考④】ミルハスとの関係

- ミルハス建設時の機能面の検討の際には、子ども劇場は、秋田市文化会館の代替施設として位置づけられていない。

5 子ども劇場に関する課題

1 秋田県児童会館における子ども劇場の役割

- ①一般の利用が約半数を占め、施設の趣旨との間にズレが生じている。
- ②児童の利用の状況でホール練習が4割を占めるなど、ステージや客席を必ずしも有する必要のない利用が多くなっている。

2 劇場環境の地域差

- ①秋田市の人口の県全体に占める割合が3割であるのに対し、普段の練習など必ずしも全県的な催事を含まない利用があり、また、秋田市の利用団体が7割であり、他地域の県民との間にアンバランスが生じている。
- ②秋田市にはアトリオンやにぎわい交流館AUなど多くの類似施設が存在し、令和4年には更にミルハスが開館している。

3 類似施設の状況等

- ①子ども劇場の利用の半数を占める200人以下の利用に適した施設としてミルハスの小ホールが整備されるなど、今後、0～19歳人口が減少することを踏まえると、類似施設により一定のキャパシティは確保されている。

6 子ども劇場のあり方の論点

- (1) 児童会館の機能として劇場は必要か。
- (2) 廃校舎や空き店舗等の遊休施設の積極的な活用は必要か。

(参考) 人口減少時代における持続可能な行政サービスの提供のあり方に関する提言(令和6年3月)から抜粋

【公共施設等の適正配置・機能更新】

- 公共施設の必要性については、市町村や民間の代替性の有無という観点に基づく検討が必要。
- 公共施設の必要性については、専用の県有施設の必要性の有無という観点に基づく検討が必要。
- 機能・施設の必要性が認められる場合であっても、建替手法や規模の妥当性という観点に基づく検討が必要。
- こうした検討に当たり、各公共施設の利用状況や受益者負担という視点を踏まえた上での、維持管理や更新の費用について、県民や関係団体等の意見を十分に聞きながら、検討を進めることが必要。